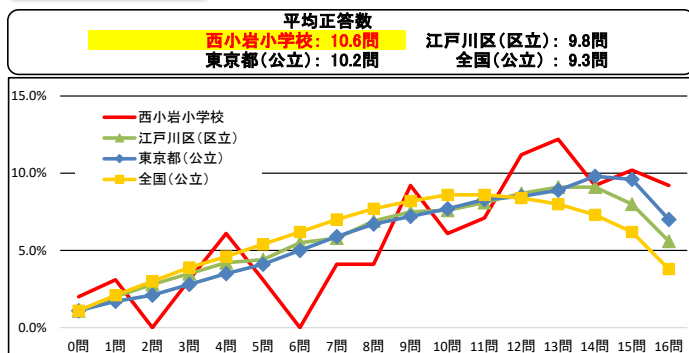


# 令和7年度全国学力・学習状況調査 結果分析表【算数】 西小岩小学校

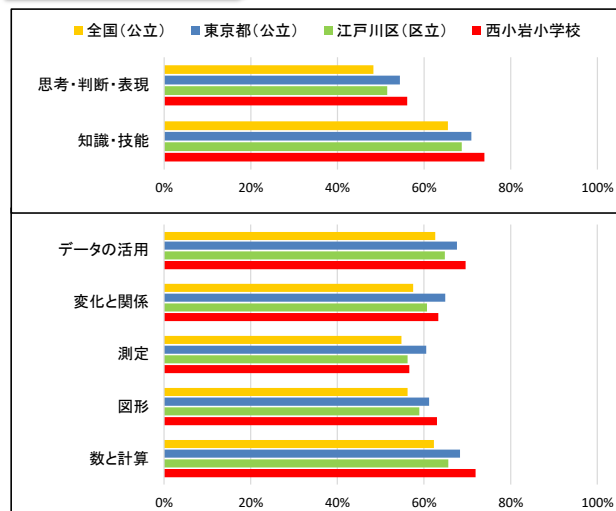
## 正答数分布



### 【平均正答率の差】

西小岩小学校	66%
江戸川区(区立)	61%
東京都(公立)	64%
全国(公立)	58%
都との差(ポイント)	2.0

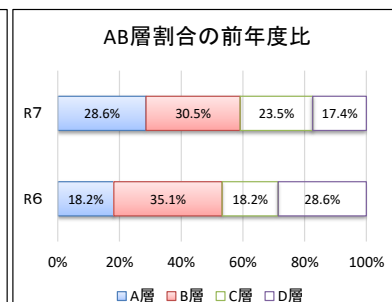
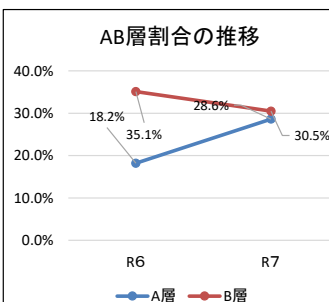
## 「領域別」の結果



## 四分位における割合(都全体の四分位による)

算数	上位 ← 下位 →			
	A層 14~16問	B層 11~13問	C層 7~10問	D層 0~6問
西小岩小学校	28.6%	30.5%	23.5%	17.4%
江戸川区(区立)	22.7%	25.9%	27.9%	23.5%
東京都(公立)	26.4%	25.7%	27.6%	20.3%
全国(公立)	17.3%	25.0%	31.4%	26.3%

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。



## 各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



### 《チャートの特徴》

- ・平均正答率が全国に比べ、高いことが分かる。
- ・自己有用感、規範意識が全国に比べ低い。

### 《家庭・地域への働きかけ》

- ・ホームページなどで学習の様子を公開し、広く伝えていく。
- ・家庭学習の目安時間(各学年×10分)を周知する。
- ・study week!の取り組みを伝え、家庭学習習慣の定着を図る。
- ・計算ドリルの丸つけ、直しを通して、習熟を図る。

### 《現状把握》

- AB層の割合と取組内容について
- ・AB層が合わせて59.1%と前年度に比べ大幅に増えた。
- ・東京都のAB層の合計と比べると7%多い。

### 《学校の取組》

- ・教員の指導力向上
- ・教員同士の授業観察を行い、授業後に話し合いを行う。
- ・毎時間の授業展開(めあて、ねらい)を明確にする。

### ・基礎学力の保障

- ・苦手な単元を重点的に取り上げ、ステップアップの時間にベーシックドリルに取り組む。
- ・習熟度別のクラス分けを丁寧に行う。
- ・東京ベーシック・ドリルテスト及び、江戸川区学力定着調査を年に3回実施する。

### ・学習習慣の確立

- ・江戸川つ子study week!での学習内容の確認を行う。
- ・自主学習を推進し、上手な児童のノートを広げていく。

### ・AB層の育成

- ・習熟度別算数における、進度の進んでいるクラスで発展問題を行う。
- ・ステップアップの時間における正答率の低い単元や計算問題に取り組み、習熟を図る。
- ・自分の考えを、言葉や図などで表現する機会を多く設ける。
- ・グループやペアなどで交流をする機会を設け、自分の考えを相手に伝えたり、様々な解き方に触れさせたりする。
- ・記述問題に取り組む機会を設ける。